

科目 臨床生理学実習 (Laboratory of Clinical Physiology)

担当教員 横田 浩充

【1】 授業の目的と学習成果〔教育目標・具体的な項目〕

臨床生理学が病院等でどのようにして実践されているか、またそれにたずさわる臨床検査技師がどのように生理学的検査を行っているかを実地で学ぶことを目的とする。

<教育目標>

- (1) 十分な知識・技能と、科学的な探究心・思考力・批判力をもつ
- (2) 自ら主体的に学ぶ力をもつ
- (3) 他者と協力して課題を解決する力をもつ

<具体的な項目>

専門分野における十分な基礎知識・基本技能 (1)
 関連する分野における概括的な基礎知識・基本技能 (1)
 根拠に基づいて科学的な推論を行い、結論を導く能力 (1)
 根拠を求めて、科学的な手法で実験・実証を計画・実行する能力 (1)
 常に問題を科学的に分析・解釈しようとし、そのための科学的探究を試みる態度 (1)
 問題を多角的に把握し、問題解決に必要な知識・技能を同定し、不足する知識・技能を自覚し、自ら獲得できる力 (2)
 問題解決のために積極的に他者と協働する態度 (3)

【2】 授業計画

1. 患者対応の全体について
2. 循環器系検査 (心電図検査、心音図検査、脈派検査、超音波、血管機能検査、基礎代謝検査)
3. 呼吸器系検査 (呼吸機能検査、血液ガス測定等)
4. 電気生理検査 (脳波検査、筋電図検査等)
5. 感覚系検査 (平衡感覚検査、聴力検査、味覚検査、嗅覚検査等)
6. その他の検査
病院の組織、機能を含む全体の業務について

【3】 到達目標

1. 循環器系の検査を行うことができ、検査結果を説明できる。
2. 呼吸器系の検査を行うことができ、検査結果を説明できる。
3. 電気生理検査などを行うことができ、検査結果を説明できる。

【4】 授業概要

実際に病院で実習を行う。東邦大学医療センター大森病院、大橋病院、佐倉病院等の臨床検査部長、病理部長、臨床生理機能検査部長、輸血部長および技師長・主任が担当する。

【5】 準備学習 (予習・復習) および必要時間

臨床生理学 I および II の授業で使用した資料・教科書について予習しておくこと。
 臨地実習先の臨床生理学検査項目について、臨床生理学の授業で使用した資料・教科書を用いて、毎回2時間以上の予習が必要である。また、実習後は教科書および配布された資料を復習 (1時間) し、毎回レポートにまとめておくこと。

【6】 教科書・参考書・参考資料

教科書「最新 臨床検査学講座 生理機能検査学」(医歯薬出版)
 参考書「臨床検査法提要」(金原出版)

【7】 評価方法およびフィードバック

臨地実習先での評価シート (70%) および臨床検査課程で課する報告書 (30%) により評価する。レポートはコメントを付し返却するので復習・確認すること。

【8】 オフィスアワー

臨地実習先にて随時担当者が対応する。
 横田：月、火、木の15時以降

【9】 関連科目

[予め学んでおくとよい科目]

臨床生理学

[この科目に続く内容の科目]

臨床特別講義

【10】 その他

直接患者に接するので、身なりを清潔に言葉づかいも丁寧に、社会の一員としての自覚を持って実地実習に学んで欲しい。臨床検査技師課程の学生を対象とする実習である。

